

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月7日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530567

研究課題名（和文） 滞日ムスリムの生活世界における多文化政策の影響と評価

研究課題名（英文） Evaluation of Policies for Multi-cultural Society toward Muslim communities in Japan

研究代表者

店田 廣文（TANADA HIROFUMI）

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：20197502

研究成果の概要（和文）：

従来のわれわれの研究成果により滞日ムスリムをめぐる生活世界の様相は、一定程度明らかにしてきた。本研究では、新たな研究課題として、特にムスリム集住地域周辺の非ムスリム日本人を対象とした意識・態度の把握を目的として、岐阜市と富山県射水市において調査分析を実施し、論文および学会発表等を行った。また2008年度から開始した日本初のモスク代表者会議を継続して開催し、滞日ムスリム・コミュニティと日本社会を架橋する関係形成のための事業を実施していることも重要である。

研究成果の概要（英文）：

We conducted two social surveys in Gifu city, Gifu Prefecture and Imizu city, Toyama Prefecture to assess the attitudes and perceptions of non-Muslim Japanese citizens toward Islam and Muslims within their local communities. Then we published research papers and made academic presentations according to the analysis of the results of these surveys. We also held the second, third and fourth “Meeting of Representatives of Masjids in Japan” in 2010, 2011 and 2012. These are important activities for formation of mutual relationships between Muslim communities and Japanese communities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
23年度	700,000	210,000	910,000
22年度	632,000	189,600	821,600
21年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
総計	2,832,000	849,600	3,681,600

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：国際社会・エスニシティ、在日外国人、イスラーム、ムスリム、移民、多文化政策

1. 研究開始当初の背景

本研究では、滞日ムスリムを対象として、「滞日ムスリムの生活世界における多文化政策の影響と評価」という主題のもと、調査・分析を実施した。

現在の日本において、ムスリムの登録外国人数のみならず日本人ムスリムも増加傾向にある。イラン・パキスタンをはじめとする国々からの入国者は、一時に比べ激減しているものの、東南アジアからの入国者が増加しており、滞日ムスリム人口全体としては、引き続き漸増傾向にある。

滞日ムスリム人口は量的には少ないが、着実にムスリム・コミュニティが各地に形成されつつあるものの、これまでの滞日ムスリムを対象とした研究には、日本において生活基盤を築きつつある滞日ムスリムの生活世界を多面的に明らかにしつつ、日本社会との関係性の中でそれらを捉えるという包括的視点が決定的に欠けていた。また、そうした研究の僅少さから、エスニックな文化的領域の形成と「共生」・「統合」をめぐる議論および具体的な視座の提出といった作業も進んでいないのが現状である。

これまでの研究において、われわれは滞日ムスリムの生活世界について、総合的な生活実態、モスクなど宗教的基盤や教育施設など制度、社会的ネットワークの把握を目的とした調査を実施してきた。その結果、総合的な把握が進んでいなかった滞日ムスリムの実態について、全国規模での調査・分析結果を提供する先駆的役割を果たし、移住・適応過程とネットワークを明らかにするという、これまでの成果により滞日ムスリムの生活世界の様相は、一定程度明らかになった。しかし、日本各地で確認される滞日ムスリム・コミュニティは、日本社会とどのような関係性

を築きつつあるのか検証する必要がある。

そこで、これまでの調査を発展させ、滞日ムスリムについて、主に日本社会との関係性を問うという視座からの研究が必要であると考へ本研究を企画した。

2. 研究の目的

本研究では、主な対象として富山県(射水市周辺)と岐阜県岐阜市のモスク周辺に居住する日本人住民を対象として取り上げて、ムスリム・コミュニティと日本社会との関係性の分析を焦点として、インタビュー調査とアンケート調査を併用しつつ調査研究を実施する。

これまで日本では、日系ブラジル人を中心に、移民の受け入れ、日本社会への適応や、地域社会におけるエスニシティ性の存在意味が議論され、「共生」・「統合」について様々な議論がなされてきた。こうした議論について、滞日ムスリム調査研究を事例として、具体的な関係性のモデル探索・提示を行う。

地方自治体・国際交流協会の政策・活動の確認、ムスリム・コミュニティに対する「多文化共生政策」の現状と評価を、これら諸団体に対するインタビュー調査によって明示する。その上で、ムスリム集住地域における日本人住民に対するインタビュー調査・アンケート調査を実施し、イスラームとムスリムに対する意識や態度を測定し、両者の関係性の現実を提示する。

3. 研究の方法

本研究では、滞日ムスリム・コミュニティと日本社会の関係性の実態把握により、イスラームとムスリムに対する意識や態度を統計モデルより記述することとした。一連の研究で、イスラームとムスリムに対する意識・態度の規定要因を分析に組み込んで検討を実施した。具体的には、(イスラームやムス

リムに対する)脅威認知仮説、年齢や性別が影響するとする個人属性仮説、日常的な交流などが影響するとする接触仮説などの包括的な検証である。その結果、岐阜市の調査結果からは、イスラーム認識等によって受容態度が決定されるとする脅威認知仮説は支持され、個人属性と直接的接触等のうち、性別、学歴、直接的接触とイスラーム認識との関連性が示された。また直接的交流を多く持つほど肯定的なイスラーム認識を抱くという接触仮説を支持する結果が得られている。ただし、これらの結果は岐阜市のみでの知見である。富山県射水市における調査結果(2011年10月調査済み)は分析中であり、2012年度には結果を発表する予定である。

4. 研究成果

われわれは滞日ムスリムの生活世界について、総合的な生活実態の把握・分析とともに、モスクなど宗教的基盤や子ども教育のあり方に関する調査を実施し、他方で、日本社会側の視点として、岐阜県岐阜市と富山県射水市において、ムスリム集住地域周辺の非ムスリム日本人を対象とした意識・態度の把握を目的として調査・分析を実施した。それらは、『滞日ムスリムの子ども教育に関する調査報告書』、『日本のモスク調査1/2』、『地域住民におけるムスリム・イスラーム意識・態度の規定要因』、『外国人に関する意識調査・岐阜市報告書』、などとして結実している。射水市の結果は、2012年度に刊行予定である。両地域ともイスラームに対するネガティブな意識がうかがわれた。

この他、ムスリム・コミュニティと日本社会を架橋する試みとして、平成21年度より全国のモスクより代表者を招聘し議論する「モスク代表者会議」を実施するとともに、『全国モスク代表者会議－会議の記録』

(2009、2010、2011年)にまとめ刊行している。各地のモスク代表者との議論から、ムスリム・コミュニティにおける日本人ムスリムの役割という将来の一課題が明確化されてきたこと、ならびに各地の多くのムスリムとのラポール形成は大きな財産である。

2012年度からの科研費補助金助成研究では、福岡市を対象に加えて多地域間での日本社会とムスリム・コミュニティの関係性に関する比較分析を課題の中心に据えて研究を継続することになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

1. 店田廣文 2011 滞日ムスリムおよびイスラームに対する日本人の意識調査—岐阜市における「外国人に対する意識調査」の調査結果より—、イスラーム科学研究、7号、131-134頁、査読無し。

2. 小島宏 2011「研究フォーラム アジア・ムスリム研究のはじまり」『歴史と地理』No.646 (世界史の研究、No.228) ,pp.49-52.査読なし。

3. 岡井宏文・石川基樹, 2011, 地域住民におけるムスリム・イスラーム意識・態度の規定要因—岐阜市調査の事例より—, 『イスラーム地域研究ジャーナル』, 早稲田大学イスラーム地域研究機構, 3, pp.36-46. 査読あり。

4. 店田廣文 2010 日本におけるムスリムの子ども教育に関する調査、人間科学研究、23巻2号、249-255頁、査読有り。

5. 小島宏 2009 在日ムスリムにおける就業行動の規定要因、早稲田社会科学総合研究、第10巻第2号、pp.21-32、査読あり。

[学会発表] (計9件)

1. TANADA Hirofumi, OKAI Hirofumi 2012 Development of Muslim Communities and Perception of Islam in Japan, International Workshop: “Life Styles of Muslim Minorities in Asia: Survey Results in Comparative Perspective“ 2012/01/07 Waseda University, Tokyo, Japan

2. KOJIMA, Hiroshi 2011“Correlates of Cross-Border Marriages among Muslim Migrants in Tokyo Metropolitan Area,” IUSSP Seminar on Global Perspectives on Marriage and International Migration, Seoul, 20-21 October 2011 2011/10/20

3. KOJIMA, Hiroshi 2010“Variations in Islamic Faith and Practice among Muslim Immigrants: A Comparative Analysis of Europe and Japan,” 105th Annual Meeting of the American Sociological Association, August 14-17, 2010, Atlanta 2010/8/14

4. 店田廣文 2010 日本のムスリム・コミュニティと地域社会—岐阜市における「外国人に関する意識調査」より—、第26回日本中東学会大会、2010/5/09、中央大学多摩校舎

5. 小島宏 2010 ムスリム移民におけるイスラーム信仰・実践の規定要因、日本中東学会第26回大会、中央大学 2010/5/09

6. TANADA Hirofumi, 2010、The Rapid Development of Muslim Communities in Japan, International Workshop: "IT, Society and Culture in Turkey and Japan", 2010/03/12 Bogacizi University, Istanbul, Turkey

7. KOJIMA, Hiroshi 2009 “A Comparative Analysis of Variations in Islamic Faith and Practice among Muslim Immigrants in Europe and Japan,” 9th Conference of the European Sociological Association, 02-05 September 2009, Lisboa, Portugal 2009/9/04

8. KOJIMA, Hiroshi 2009 “Determinants of Family Status among Muslim Migrants in Tokyo Metropolitan Area,” 104th Annual Meeting of the American Sociological Association, August 8-11, 2009, San Francisco 2009/8/08

9. 小島宏 2009 マレーシア人ムスリム元留学生の滞日中の宗教実践、日本中東学会第25回大会、広島市立大学 2009/5/17

〔図書〕(計7件)

1. 店田廣文・岡井宏文：2011 全国モスク代表者会議 3-第3回会議の記録 2011年3月6日 Research Papers: Muslims in Japan No.9

2. 店田廣文・岡井宏文：2011 外国人に関する意識調査・岐阜市報告書 Research

Papers: Muslims in Japan No.8

3. 店田廣文・岡井宏文：2010 全国モスク代表者会議 2-第2回会議の記録 2010年3月7日 Research Papers: Muslims in Japan No.7

4. 店田廣文：2010 フィールド調査とアジア社会論の課題、村井吉敬編『アジア学のすすめ 第2巻 アジア・社会文化論』弘文堂、274-300頁

5. 店田廣文・岡井宏文：2010 滞日ムスリムの子ども教育調査報告書 Research Papers: Muslims in Japan No.5

6. 店田廣文：2009 全国モスク代表者会議 - 第1回会議の記録 2009年2月11日 Research Papers: Muslims in Japan No.4

7. 店田廣文・岡井宏文：2009 日本のモスク調査 2 イスラーム礼拝施設の調査記録 Research Papers: Muslims in Japan No.3

〔その他〕

2009年度より開設している滞日ムスリム調査ホームページに、これまでの調査報告書や各地のモスク調査の記録及び画像等を掲載している。順次、新たな報告書やモスク代表者会議の周知などにも利用している。

<http://www.imemgs.com/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

店田 廣文 (TANADA Hirofumi)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：20197502

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

小島 宏 (KOJIMA Hiroshi)

早稲田大学・社会科学総合学術院・教授

研究者番号：90344241

村田 久 (MURATA Hisashi)

環太平洋大学・次世代教育学部・専任講師

研究者番号：80350445